

（美容外科最前線）

良い医師と自分に合った医療で、人生を豊かに！



神戸大学医学部附属病院美容外科
診療科長・准教授 一瀬晃洋先生

—神大病院が美容外科開設に至つた経緯、背景をお聞かせください。

一瀬 美容医療の教育制度を整備するというのが第一の目的です。

美容クリニックは非常に多くあります、美容医療の教育機関はほとんどありません。未熟な技術で治療を行うクリニックもあり、その結果、困って大学病院を受診さ

れる患者さんは少なくありません。

テーマは美容医療を「安全」「効果的」にするという2つ。大学病院の使命として、医療技術と、倫理面の教育を行います。

—倫理面の教育とは？

一瀬 美容医療には規制が少ないために、「安全」「効果的」な美容医療のためには、治療を行う医師の責任が非常に重いのです。

美容医療では、日本の未認可の医薬品や医療機器が多く用いられます。その理由は、美容医療においては病気の治療用ではないために、ほとんどが日本の厚生労働省の認可の対象にはならなかつたためです。現在までに厚生労働省が認可したのは、表情じわを取る薬「ボトックスビスター」のみ。ボソリヌス毒素をもとにして開発され、安全性が確認された薬です。

日本で未認可の医薬品でも、医

師が自分の責任で外国から輸入して使用するのは制限がありません。未認可の治療を行う美容医療においては、安全性を絶対優先にして治療を選択しなければなりませんが、その原則を学ぶ機会が無かつた医師は少なくありません。不適切な治療が行われて、被害を受けた患者さんは少なくありません。

美容大国アメリカでは、美容医療においてもFDA(アメリカ食品医薬品局)主導で時間とコストかけて治験を行い、審査を行います。安全性と効果の確認に莫大な費用がかかるために、認可薬は高コストになりますが、私たちは、その認可薬あるいは長年使用されて安全性に問題を生じていないものを使うようにしています。

—こちらの美容外科の特徴は?

一瀬 中心はアンチエイジング医療で、シミ・シワなど加齢による変形の治療を行っています。徹底的に吟味した治療を行い、安心な美容医療を提供することに心がけています。中でも、高度医療を安全に行うことができます。たとえ何か

不都合が生じた場合でも、必要に応じて他の診療科と連携して対処ができます。医師の教育機関ですから、大手術のみというわけではなく、「プチ整形」と呼ばれるような切らない治療や美容医療全般を行います。美容医療の後遺症の相談も行っています。

—美容医療について間違った情報に惑わされて困っている人は多いのですか。

一瀬 まず気を付けるべきことは、『最新』と謳われる治療です。

歴史的に美容医療で、特に問題になってきたのは、新しい薬や機器による治療でした。「新しい」治療は患者さんにとって魅力的にアピールしますが、実際にはそのほとんどは、受けたことが他人にわかりにくい不確かな治療です。モラルが欠如した無責任な治療の結果、困る患者さんが多く生じました。治療後十年以上を経て、合併症が生じることもあります。このようなく「最新」の治療はこれからも次から次へと登場するでしょう。

また、最近は「プチ整形」と呼ばれる治療が流行っています。ボトックスやヒアルロン酸の注入などの「プチ整形」はうまく使うと有用性が高いですが、夢のような治療ではなく、患者さんによって向き不向きが大きい治療です。効果を感じない患者さんもおられますし、中には実際は危険が潜む治療も含まれますので注意が必要です。

—「プチ整形は避けたほうがよいのでしょうか。

一瀬 自分に合った方法を選ばなくてはなりません。

「プチ整形」と手術を比べると、手術のほうが効果と持続期間が格段に上です。手術は改良が重ねられて、短い皮膚切開でより大きな効果を得られるような術式が主流になってきました。最近の手術では、受けたことが他人にわかりにくくなっています。

例えばフェイスリフトは、プチ整形の10倍くらいの効果があり、長持ちします。傷跡も目立たなくなります。ただし内出血して腫れますが、社会復帰まで2週間ほどから、社会復帰まで2週間ほどかかるというデメリットがあり、受けのことのできない人もいます。

また、プチ整形は、医師の技術による効果の差が意外に大きいのです。プチ整形は、もともと患者さんが「気軽に受けることができる」というPRのために付けられた名称ですが、最近「気軽に行うことができる」治療法と考えて導入する医療機関は増えているようです。しかし、「安全」「効果的」なプチ整形には実際は高い技術と慎重さを必要とします。

—失敗しないためには、どうすればいいのでしょうか？

一瀬 良い医師を選ぶことに尽きます。一つの基準は、術後のフォローが確実な医院。

主治医が一定せずにどんどん変わるようになどころや、通常は看護士や事務員しかいないのに、治療の時だけ医師がやって来るような医院では、きちんとしたフォローは難しいといえます。そして、医師の経歴から、「まじめさ」が感じ取れること。日本形成外科学会、日本美容外科学会（J S A P S）、日本皮膚科学会等の専門医ならば、それぞれに技術的な背景はしっかりとっています。

また、安価すぎる治療費にも落とし穴があります。良心的な医療は、安価では提供できないのが美容医療です。

例えば、ボトックス治療は、クリニックによりその治療費は数倍も違います。治療費の差が生じる理由ですが、認可薬であるボトックスではない安価な類似品が多く出回っているという事実は、一般にはあまり知られていません。認可薬は、安全性の確認や製品管理に多額のコストがかかるために、どうしても高額になります。安全で質の高い治療を行うためには、他にもいくつかのコスト増となる要因があります。

安価な治療ではそのコストが省かれている可能性がありますので、治療を受ける前にその内容をよく確認しましょう。

新しい治療法ばかり勧める医師にも注意が必要です。上に述べましたが、新しい治療法には危険が潜んでいる可能性があります。

一瀬 不老不死は人類の永遠の夢ですが、成し遂げるのは容易ではありません。そこで生まれたのが、限られた人生を充実させるアンチエイジング医療です。

充実した人生のためには機能を保つ必要があります。機能と言うと、視力、聴力、歩行などの身体的機能を思い浮かべますが、人間社会では、知能や他人に好かれるなどのいわば社会的機能も必要です。

では人間にどうって外面はどのようない意味を持つのか？

外顔の社会的意義を研究する「顔学」という学問があります。顔にはいろいろな情報が出ています。そこから多くのことを判断して社会を生きる能力を、人間は進化の過程で獲得したのだと言われています。もしくは、生きていく中でそれを学びます。

外顔 例えば顔の配置、大きさ、左右対称性、肌の色・きめ、髪の毛の美しさ、体型や服装などは、私たちの脳に多くを語りかけ、人生を左右します。美しさは幸せを確実にもたらすものではありませんが、整った外顔が、社会で様々な有利な影響をもたらすことを証明する研究は多くなされています。

の美容医療の必要性は？

一瀬 不老不死は人類の永遠の夢ですが、成し遂げるのは容易で

ナンシー・エトコフは、著書「なぜ美人ばかりが得をするのか」(※)の中で、人は何を美しいと思うのか、なぜ美に対する感受性を持つのかなど、人間にどうて外面が持つ意味の本質を科学的・客観的に述べています。

外面が人に与える影響の大きさは皆知っていますから、自分の外

面が損なわれた場合には心理的な影響が大きいです。外面の重要性は身体的機能と同じように、「失った」と感じたときに初めて気付くものです。

美容医療の目的は、外面を変えることではありません。外面を整えることで、心理的に良い影響をもたらし、人生を充実させる助けてするのが最終的な目的です。



一瀬晃洋
神戸大学附属病院美容外科診療科長、医学博士、日本美容外科学会(JSAPS)専門医、日本形成外科学会専門医、日本レーザー医学学会専門医
た、魔法のような

の十分なルールづくりができるいません。医師の技術やモラルも様々で

はやめて、勉強して

望んで下さい。ま

一瀬先生が美容外科を選ばれた理由は?

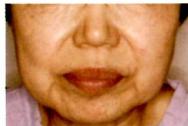
一瀬 アメリカには多くの美容外

科医があり、外面に関わる問題を医療で解決していることを知りました。

彼らは長年形成外科でトレーニングを積んだスージーパードクターです。カッコいいなあとと思いました。ところが15年ほど前には、大学に形成外科がなく…。技術の裏付けのある美容外科医になるためのトレーニングは、今も昔も簡単ではありません。

一最後に、読者へのメッセージをお願いします。

一瀬 保険診療外の美容医療には規制が少なく、現在のところ患者さんに安心して受けて頂くため



術前



改良されたフェイスリストの術後1年
たるんだ顔がシャープなラインに

治療は存在しませんから、氾濫する情報に惑わされて飛び付くと失敗します。

良い医師と共に自分にピッタリ合った方法を選べば、驚くほど人生に喜びと力をもたらすのが美容医療です。是非、美容医療の素晴らしさを体験していただきたいと思います。

一ありがとうございました。

※「なぜ美人ばかりが得をするのか」

ナンシー・エトコフ著

木村博江訳

草思社2000年刊

神戸大学美容外科・形成外科

◆直通電話

お問い合わせ専用

☎078-382-5822

(8:30~16:30 土日、祝休日、年末年始をのぞく)

初診予約

☎078-382-5264

(8:30~15:00 土日、祝休日、年末年始をのぞく)

<http://www.med.kobe-u.ac.jp/cosme/>